

## 「こん棒体操ぼうたいそう」

「ひじをのばして！もつと大きく！」  
三坂地小学校では、毎年六年生が運動会でごん棒体操の演技をしています。そのため、運動会が近くなってくるとほとんど毎日ごん棒体操の練習があります。でも、みどりは、ごん棒体操が大きらいでした。五年生の時から、六年生に教えてもらっていたのですが、何度やってもうまくいきません。先生からもたびたび注意を受けてしまいます。

ちようどそのころ、国語の授業で「くらしの文集」に取り組むことになりました。何を書こうかと考えていると、仲良しのめぐみが話しかけてきました。

「みどりちゃん、私、ごん棒体操のことを書くから、先生にもう一度ごん棒体操のことを聞きに行こうと思うんだけど、いっしょに行ってくれない？」

「え？う、うん……。いいよ。」  
みどりは、何だか気が進まないまま、めぐみといっしょに先生の所へ行きました。

先生は、ごん棒体操は、昭和二十七年（一九五二年）に子どもたちの健康を願って作られたこと、それから毎年、六年生が心を合わせ演技をして、ずっと伝えられてきたことなどを話してくれました。

「三坂地小学校の伝統だからね。地いきの方々も、毎年のごん棒体操を楽しみにしておられるんだよ。多くの人たちから『上手だったね。』って言ってもらえるように、がんばらないといけないね。」

家に帰ると、お母さんが、  
「ごん棒体操ががんばつとるんじゃないかね。」  
と話しかけてきました。何で知っているのだろうかと思っ

「実はね、お母さんも小学校の頃、ごん棒体操をしたんよ。今日学校の横を通ったら音楽が聞こえてきてね、なつかしくって思



わず体が動きそうになったのよ。」

「えっ？今でも覚えてるの？」

「当たり前よね。体が覚えるまで一生けん命やったんだから。」  
お母さんから、そのころは五・六年の女子がやっていたこと、  
休けい時間だけでなく放課後や家に帰ってまで、みんなで練習し  
ていたこと、先生からとてもきびしく指導されたことなどを教え  
てもらいました。

「お母さんは、こん棒体操好きだった？」

みどりが聞いてみると、お母さんは、教えてくれた先ばいや友  
達のおかげで上手になったことや、運動会で演技したとき、みん  
なで作りに上げたことをほこらしく思ったことなども話してくれ  
ました。そして、お母さんが後はいに教えたときには、うまくで  
きるかどうか自分のことのようにドキドキしたのだそうです。

「お母さんが小さい頃には、こん棒体操を、みどりもする  
なんて、とつてもうれいわ。みどりたちのこん棒体操を見る  
のがとつても楽しみなのよ。」

みどりは、お母さんの話を聞きながら、改めて気が引きしまる  
思いがしました。

次の日も、こん棒体操の練習がありました。めぐみにも教えて  
もらいながら、苦手だったところを何度も何度もやつてみまし  
た。すると、今まで失敗していたところも、上手にできるよう  
になりました。休けい時間も練習していると、一年生が何人も見に  
来て、こん棒体操の動きをまねして遊んでいました。

それを見て、先生やお母さんの言葉を思い出し、こん棒をにぎ  
る手に力が入りました。

運動会が近付くにつれ、だんだん、みんなの動きとそろよう  
になってきました。最後の練習を終えたときには、心まで一つに  
なったような気がしました。

明日は運動会です。みどりは、三坂地小学校の伝統を引きつい  
でこん棒体操を思うと何だかわくわくしてきました。